

岡山市都心部におけるトランジットモール社会実験の実施と評価

(株)エイトコンサルタント 正会員 ○波多野 吉 紀
 (株)エイトコンサルタント 正会員 粟 井 睦 夫
 岡山大学環境理工学部 正会員 阿 部 宏 史
 岡山大学大学院 学生員 具 国 鎮

1. はじめに

岡山市は人口約 63 万の地方中核都市であり、その都心部は、古くは池田藩 31 万石の城下町として栄えてきた。しかしながら、現在の都心部は地価の高騰、モータリゼーションの進展等により、他都市にもれず、諸機能、人口の郊外流出がますます進み、都心機能や商業機能の低下をもたらしている。特に商業機能については、消費者ニーズの多様化により従来型の商店個々では対応がついていけず、さらには高齢化による後継者不足や 1km 四方のエリアに都心二大商業核がそれぞれ独立して形成されていることなども相まって、その衰退は非常に深刻なものとなっている。

県庁通りトランジットモールは、この二極分散化した商業核の相互連携による機能の一体化を図るとともに、岡山市都心部の持つ魅力ある空間を活かしたネットワークを形成し、人々が快適に楽しみながら回遊できる賑わいのある都心空間を創出することにより都心活性化を目指したものである。

そのための第一歩として、今回、県庁通りでトランジットモールの社会実験を行い、都心来街者や沿道居住者、事業所にトランジットモールの理解を深めてもらうとともに、アンケート調査を通じて今後の社会実験の継続、本格実施に向けた課題を整理した。

2. 岡山市都心部の概況

岡山市都心部には水と緑豊かな西川が南北に流れており、岡山駅より約 1km 東にも一級河川旭川や岡山城、日本三大庭園のひとつである後楽園など都心エリアに歴史的で潤いのある空間が存在する。また、都心部の四角にそれぞれの特性を活かしたゾーンを形成し、それらを回遊する路面電車環状化構想等、その中心に位置する 1km スクエアを核として人を中心とした都市への変革を目指している。



図 1 岡山市都心部の概況

3. 社会実験の概要

トランジットモール社会実験は、岡山市都心部中心を東西に通る県庁通りで平成 11 年 11 月 28 日（日曜日）に行われた。県庁通りは市役所筋～県庁まで約 1.6km で、市役所筋～県道までの約 1.0km が東行き一方通行 2 車線、県道～県庁までの約 0.6km が東行き一方通行 1 車線の道路として整備されている。沿道にはビブレ、NTT クレド、天満屋等岡山を代表する大規模店舗が立地し、それらの間にも小売店が立ち並んだ商業機能の集積が比較的高い路線である。また、西川との交差部北側には都心としては非常に大きい下石井公園（0.86ha）があり、西川と一体となった憩いある空間が整備されている。このうち東側 0.6km の区間について一般自動車交通の通行止めを行い、2 車線のうち北側の車線を公共交通機関（バス及びタクシー）の通行帯、南側車線及び両側歩道部を歩行者の通行帯として実施された。また、県庁通り→天満屋→あくら通り（西行き一方通

行2車線)を15～20分間隔で低床式の循環バスが運行された。

4. アンケート調査結果

アンケート調査は、都心来街者については当日のヒアリング、沿道居住者及び事業所には後日、アンケートを配布し郵送にて回収した。配布数及び有効票回収数は表1の通りである。

表1 アンケート調査配布・回収状況

調査対象	配布数	回収数	回収率
都心来街者	—	131	—
沿道居住者	200	65	32.5%
沿道事業所	99	63	63.6%

(1) トランジットモールの目的の理解度

トランジットモールの目的について、今回の社会実験からイメージできたかどうかについては、都心来街者に対しては比較的高い理解が得られている。沿道居住者や事業所では無回答が非常に多いが、理解できた人が分からなかった人を上まわっており、トランジットモールへの理解については最初の社会実験としては理解が得られたものと考えられる。

表2 トランジットモールの目的の理解度

調査対象	理解できた	どちらとも言えない	分からなかった	無回答
都心来街者	62.6%	11.5%	25.2%	0.8%
沿道居住者	27.7%	9.2%	13.8%	49.2%
沿道事業所	23.8%	20.6%	20.6%	34.9%

(2) トランジットモールの総合的評価

今回のトランジットモールの評価として、歩きやすさや、通りの賑わいなど10項目を調査したが、総合的な評価では、都心来街者の半数以上が『良い』と評価し、『悪い』と答えた人は1割以下であった。しかしながら、沿道居住者で『良い』『悪い』が同程度、事業所では『良い』が『悪い』を下回り改善すべき余地が大いに残されている結果となった。問題としては、自宅周辺の環境の悪化を感じた人が約2割おり、環境悪化の具体的内容として記載があったほとんどがゴミ問題であった。

表3 トランジットモールの総合評価

調査対象	良	い	どちらとも言えない	悪	い	無回答
都心来街者	57.3%	34.4%	8.4%	0.0%		
沿道居住者	12.3%	27.7%	10.8%	49.2%		
沿道事業所	15.9%	22.2%	19.0%	42.9%		

(3) 都心来訪頻度への影響

都心来街者のトランジットモール整備による都心来訪頻度は、イベントのある場合では半数以上の人が増えると答えたのに対し、無い場合では、約半数の人がこれまでと変わらないとなっており、イベントの有無が都心来訪頻度に大きく影響する結果となっている。

表4 都心来訪頻度の変化

イベントの有無	非常に増える	少しは増える	は変わらない	減少する	無回答
あり	20.6%	40.5%	6.1%	0.0%	32.8%
なし	0.8%	8.4%	51.9%	5.3%	33.6%

(4) トランジットモールの充実に必要な事項

トランジットモールの充実に必要な整備(複数回答可)は、調査対象に係わらず同じような傾向となっている。特にバリアフリー、憩いや緑のある空間、お洒落なショッピング空間に対しては、被験者の約4割以上が必要であると考えている。

表5 トランジットモール充実に必要な事項

必要な事項	来街者	居住者	事業所
歩道のバリアフリー	60.2%	52.3%	52.4%
憩いのある空間	56.8%	29.2%	46.0%
緑の多い空間	47.7%	38.5%	34.9%
お洒落な商業空間	35.2%	29.2%	42.9%
都心公共交通機関整備	23.9%	29.2%	15.9%
自動車アクセスの向上	20.5%	16.9%	28.6%

5. おわりに

今回の社会実験では、トランジットモールに対し比較的高い理解が得られた一方、沿道地区に対する課題も多い結果となった。また、社会実験の継続、本格実施にむけて、ゆとりある憩い空間や楽しめる商業空間、それらを回遊するための歩きやすい歩道の重要性が再認識された。この結果はトランジットモールのみならず市民が都心に求めているニーズであるとも判断でき、岡山市都心部全体の課題として取り組んでいく必要がある。

最後に、今回のトランジットモールに御尽力された岡山市商工会議所、建設省岡山国道工事事務所、岡山市の各機関、また、アンケート調査の実施に御協力を頂いた岡山大学環境理工学部の学生諸氏に深く感謝いたします。